

(3)

内田定雄氏

在勤各地における主要事件の回顧

N-0049

0131

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

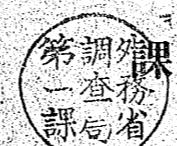
昭和十四年一月
特輯第六號

内田定槌氏述

在勤各地ニ於ケル主要事件ノ回顧

祕

外務省調査部第一課



A	1	3
	195	
T	196	
21	5	71

12.2.1.0.1

143

A	1	3
	T	196

N-0049

0132

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
<http://www.jacar.go.jp>

N-0049

0133

外務省調査部第一課

6.12.21.0-1

144

内田定植氏述

在勤各地ニ於ケル主要事件ノ回顧

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

支那各處奉使や、主導事務、回顧
内閣機密文庫

支那各處奉使一欄

略歷

内田定矩氏へ慶應元年福岡縣小倉ニ生レ、明治二十二年外務省ニ入
リ、上海、京城、紐育ニ在勤シ、明治三十九年特命全權公使兼總領事トシテ「ア
ラジル」國駐劄、特命全權公使トシテ瑞典國駐劄、特命全權大使ト
シテ土耳其出張ヲ經テ大正十三年四月退官セラレタリ

四十一年アヒヤニキノ東勘
四十一年アルヤニキ、南洋列島を観かる
四十一年ハラシル駐劄と見せらる
大正六年アヒマーラ萬葉
十二年トニコ

9 12.2.1.0-1

145

N-0049

0135

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

在職中私ノ経験シタ事柄テト世間ニ餘リ知ラレズ、又後世ニ歴史
トシテ殘サレナイヤウナコトモアルノテ、ソレ等ニ就テ若干追憶ヲ
語ツテ見ヨウト思フ。

私ハ明治二十二年ニ外務省ニ奉職シ、翌二十三年ニハ副領事トシ
テ上海在勤ラ命ゼラレタ。當時ハ上海モ未ダ日本人ノ發展スル地ト
ハナラズ、邦人商店ノ如キモ僅ニ五指ヲ屈スルニ過ギナカツタ。
明治二十六年、領事トシテ京城在勤ラ命ゼラレ、同地在勤中日清
戦争ガ起ツタガ、戦争終結後所謂王妃殺害事件ナルモノガ勃發シタ。
一、京城在勤當時

王妃殺害事件

日本ハ朝鮮ノ内政改革ノ緊要ナルヲ思ヒ大鳥公使ヲシテ朝鮮政府
ニ勧告セシメタガ、同國政府ハ容易ニソレヲ實行シヨウトシナイ。
ソレハ當時勢力ヲ恣シテ居ツタ閔氏一派ガ内部カラ妨ゲテ居ツタ
カラデアルガ、他ノ大臣ハ大鳥公使ノ勧告ヲ受ケ容レテモ、閔氏出

6 12.2.10.1

146

身をアヌム、勢ノ大國ハ大蟲公爵ノ體制を受ケ密ニヤテ、國外出
ベシハ萬物競争ニ迄ニシテ御ノモ國内ニ一國民内政セラ御ノモ國外
ニ競争セラシテ參ル。同國運學ノ密ニテモ實質ノ事リトナリ。

日本ハ韓國ノ内政競争ノ累慶セアヤ思ヨリ大蟲公爵セラモ國外也

王政遺書

身、東洋企圖當朝
御帝威國々、殊々、韓國競争過度而王政遺書奉納セラモ、此後競争無
國會二十六年、韓國外々ヤ京畿密接ニシテモ國外セラモ、獨裁統領中日競
ハセキ次、神人商試ノ機半半正直を視スルモ、國外セラモ、獨裁統領中日競
セル競争態度無セヨウ矣。當時ハ北滿洲及日本ノ競争又、韓國又、韓
國ハ國會二十三年ニ授權諭ニ參議セラモ、國二十一年ニハ韓國導入
諸々モ風毛ヤ、思セリ。國二十一年ニハ韓國導入、國二十一年ニハ韓國導入
イセモ難セヨセド、神人商試ノ機半半正直を視スルモ、此後競争無
濟國中達ハ韓國ノ參議院セラモ、當國主翁セラモ、又獨裁統領國

身ノ大臣ガドウシテモ承知シナイ。其ノ上日清戰爭前猖獗ヲ極メタ
東學黨ガ地方デハ未ダ勢ヒヲ逞ウシテ居ツタリシテ、朝鮮ノ内政改
革ハ到底日本ノ思フ通り行ハレズ、大鳥公使モ大イニ弱ツテ居ツタ。
トコロガ日本内地デハ、朝鮮ノ内政改革ノ行ハレザルハ政府ノ方針
ガ惡イカラダト政府ヲ攻撃シ、大鳥公使ヲモ非難スル聲ガ擧ツテ來
タ。時ノ外務大臣陸奥氏ハ大變憂ヘテ、是ハドウシテモ日本カラ第
一流ノ人物ヲ公使トシテ朝鮮ニ送ラナケレバナラヌト云フコトニナ
リ、内務大臣井上馨（當時伯爵）ヲ特命全權公使トシテ大鳥公使ニ
替ラシメタ。

S 12.2.1.0.1

147

0136

N-0049

マク行カズ、三浦子爵ト替ツタ。

私ハ其ノ領領事館ニ住シテ店ツタガ。或ル朝一明治二十八年十月
八日一ケタ、マシイ銃聲ニ眠リヲ破ラレタ。慈ヲ開クト未ダ夜ハ明
ケ切ラヌ。館内ニハ警察署ガアツタノデ。何事ガ起ツタノカト巡查ニ訊
ク。居ラヌ。廄舎ヘ行クト私ノ馬ガ見エナイ。ドウシタノカト巡查ニ訊
クト、警部ガ乗ツテ行キマシタド言フ。其ノ中ニ銃聲ハ止ンダ。近
置益君モ近クニ居ツタガ、矢張リチツトモ知ラスト言フ。

ツテ訊イテ兒タガ、何ノコドカ分ラスト言フ。又當時ノ外交官袖日
本ノルト、最初ハ大院君（國王ノ父デ、王妃トハ犬娘ノ間柄デアツタ人）
サウシテ居ル中ニ、血刀ヲ提ゲタ連中ガ歸ツテ來テ新納少佐ノ所
ヘ報告ニ行ツタ。私モソコヘ行ツテ話ヲ聞イタガ。其ノ連中ハ昨夜

格別殊等々目撃者無く實物を辦難ヒ管ハ事ベモ多々矣然夷體也
ナウ日本ニ本居觀音堂也ハ未だ有タガ、而びに諸國内通也。革天音ヘシ、
王攝氏中心ニセヤ。晋ハ心也。温か改テ、朱祖也頗基テセ、也。又大
井上金剛也。書字もテ照テ其前を御望ム矣。漫談ノ如古ハ餘也
甚也。内邊大蟲也。卷之當御歸國ノモ、即義金剛公國守ニヤ。大蟲公國ニ
一滅ヘヘ。總ヤ公國也。天國也。總也。天國也。天國也。天國也。天國也。天國也。天國也。
天國也。天國也。天國也。天國也。天國也。天國也。天國也。天國也。天國也。天國也。天國也。天國也。天國也。
天國也。天國也。天國也。天國也。天國也。天國也。天國也。天國也。天國也。天國也。天國也。天國也。天國也。天國也。天國也。天國也。天國也。
天國也。天國也。天國也。天國也。天國也。天國也。天國也。天國也。天國也。天國也。天國也。天國也。天國也。天國也。天國也。天國也。天國也。天國也。
天國也。天國也。天國也。天國也。天國也。天國也。天國也。天國也。天國也。天國也。天國也。天國也。天國也。天國也。天國也。天國也。天國也。天國也。
天國也。天國也。天國也。天國也。天國也。天國也。天國也。天國也。天國也。天國也。天國也。天國也。天國也。天國也。天國也。天國也。天國也。天國也。

カリシナ二階へ通サレタ。スルト公使ハ床ノ間ニ不動明王ノ像ヲ飾ツテ燈明ヲ上ゲテ拜ンデ居ル。ソコデ私ハ「大變ナ職ギニナリマシタネ」ト言フト、公使ハ「イヤ、是デ朝鮮モ愈々日本ノモノニナツタ。モウ安心ダ」ト言フ。ソレデ私ハ「併シ是ハ大變ナコトデス。日本人ガ血刀ヲ提ゲテ白晝公然京城ノ街ヲ歩ツテ居ルノヲ朝鮮人ハ素ヨリ外國人モ見タニ相違ナイカラ日本人ガ此事變ニ關係シタコトハ隠スコトハ出來マセヌ。併シ日本ノ兵隊ヤ警察官、公使館員、領事館員等ガ之ニ關係シタコトハドウニカシテ隠シタイト忠フガ、ソレニ就テハドウ云フ方法ヲ講ジタラ宜イデセウ」ト言ツタガ、公使ハ「俺モ今ソレヲ考ヘテ居ルノダ」ト言ハレタ。

公使ト話シテ居ル中ニ露國公使ガ血眼ニナツテヤツテ來タノテ私ハ席ヲ外シタガ、露國公使ガ歸ツテカラ再ビ二階へ上ツテ見ルト。公使ハ非常ニ悄レテシマツテ居ル。ソコデ私ハ「日本人ガ關係シタコトダケハ何ドシテモ隠敝シナケナルマイト繰返シ言ツテ公使

S 12.2.1.0-1

151

公使モ拂リ手懸ヘ暫伏スル。想アリテ思セキ無ふオ。三十載以降ニ會へセリ。公使ハ二割ニ保リ、餘ヘ才ハ皆合意モ猶マニ識ス。我蘇ハ職常ニ通クモ、公使ニ會アマニ解キヘ瑞事發小失セラ。思セラ法、漢籍、鐵束ニ對すヘ讀誦人古、義學問不共、後故。故ニカセトシヤ又其ヘ樂日次ニ詠成く與出セヤ遺稿ヘ傳ヒアリ。ノモ未だ殊甚成りす。や今畢ハ既ヘ申ヘ難リ居ニ後故、惜モ哉。トテノモ又モ天王城ニ構築セトイ讀本々五モ、總書ノ多、遺稿類ハ王室御内ヘ其體氏々極シ。出ス裏一人ハ職人又勳ヘ宣傳後總書ニ御藏於小學、モ天王城ノ難を除セテ御本亦ハ云々。天王城モ、天王城ノ主也。天王城ハ生還ハ難セテ我聞人ニ聞セ良サセ、天王城モ天王城也。天王城ヘ遺ニヘ重文改譜由出セモ、天王城議家發モセトリベロ。

1703

ト別レタガ、儲テソレカラドウシタラ宜イカ考ヘガ付カヌ。外務省
ヘ知ラセヨウト思ツテモ電信ハ公使館ノ命令テ差止メラレテシマツ
テ居ル。公使館以外ノ者ハ一切電報ヲ打ツコトヲ差止メラレテシマツ
ツタノデ私モ無論電信ヲ出スコトハ出來ナイ。後テ聞ケバ「昨夜王
城ニ變アリ王妃行衛ヲ知ラズ」ト云フ電報ヲ公使館カラ外務省ヘ送
ツタサウダガ、ソレ切り止メテシマツタノデ私ハドウスルコトモ出
來ナカツタ。

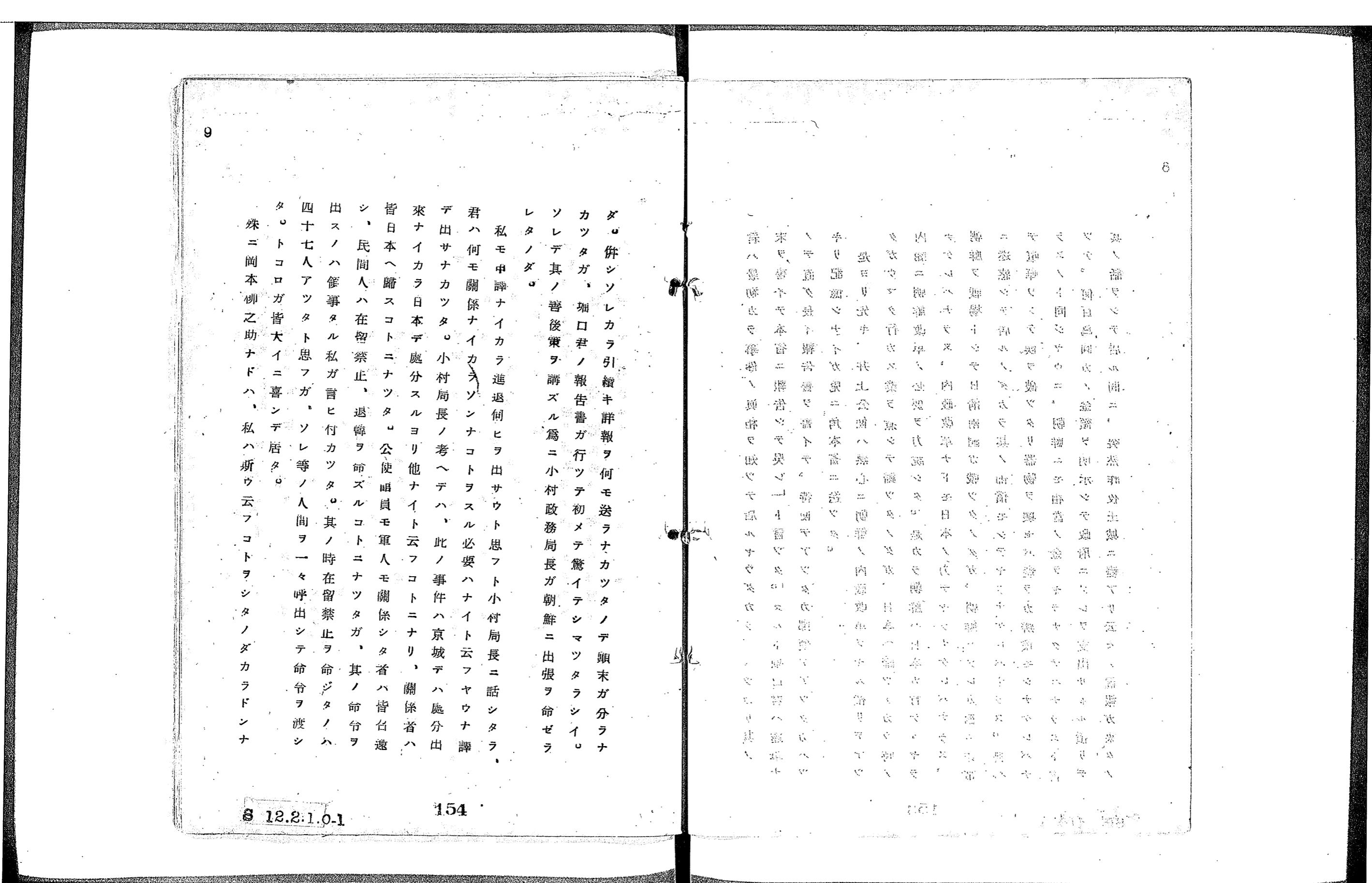
S 12.2.1.0-1

152

日本公使官邸にて此公使館が當時の外務省の主張である事実を明確にし、其の内訳を述べる。主張の核心は、公使館が日本政府の代表である以上、その命令によっては一切の電信を差し止められるべきである。この主張は、外務省が公使館を信任する立場から、公使館の行動を制御する手段として用いられた。この文書は、日本公使館がその主権を認められ、その命令によっては他の機関からの電信を差し止めらるべきであることを示すものである。

君ハ最初カラ事件ノ真相ヲ知ツテ居ルヤウダカラ、スツカリ其ノ
末ヲ書イテ本省ニ報告シテ吳レ」ト言ツタ。スルト細口君ハ達筆ナ
ノデ直グ長イ報告書ヲ書イテ、特使テアツタカ郵便テアツタカハツ
キリ記憶シナイガ鬼ニ角本省ニ送ツタ。

是ヨリ先キ、井上公使ハ熱心ニ朝鮮ノ内政改革ヲヤル積リテアツ
タガウマク行カズ業ヲ漁シテ歸ツタノダガ、日本へ歸ツテカラ時ノ
内閣ニ朝鮮改革ノ必要ヲ力説シタ。是カラ朝鮮ハ日本ガ育テ、セラ
ナケレバナラヌ、内政改革ナドモ日本ノ力テヤラナケレバナラヌ、
朝鮮ヲ戰場トシテ日清兩國ガ戰ツタノダガ、朝鮮ハソレガ爲ニ非常
ニ迷惑シテ居ルノダカラ其ノ補償モシテヤラナケレバナラヌ。料亭
デ喧嘩ヲシテ喫ヲ破ツタリ器物ヲ毀セバ幾ラカ辨償モシナケレバナ
ラヌノト同ジヤウニ、朝鮮ニモ相當ノ金ヲヤラナクテハナラヌト言
ツテ。何百萬圓カノ金額ヲ明示シテ政府ニソレヲ支出サセル積リテ
其ノ話ヲシテ居ル間ニ、突然昨夜王城ニ變アリ云々ノ電報ガ來タノ



N-0049

0143

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
<http://www.jacar.go.jp>

警の日本職事連合の事務官が襲撃され、日本に逃亡した。この事件は日本政府と露國公使館との間で緊急の交渉が行われた。露國公使館は日本に宣教師ト朝鮮人ガ一組ニナツテ日本黨ノ人々ヲ暗殺スル陰謀ヲ企テタガ。ソレハ朝鮮政府ノ當局デ皆犯人ヲ逮捕シ處分シテシマツタ。サ

處分ヲ受ケテモ仕方ガナイノニ、在留禁止デ濟メバ非常ニ有難イト言ツテ喜ビ、其ノ他ノ壯士連モ皆有難ク在留禁止命令ヲ御受ケシタ。安達謙藏氏カドモ矢張リ此等壯士連ノ首領株ダツタガ。ソレ等ノ連中ハ皆公使館ノ人々、陸軍々人等ト一緒ニ京城ヲ立ツテ仁川カラ船ニ乗ツタ。船ノ名前ハ忘レタガ。皆大イニ手柄ヲ立テ、紺草モ貴ヘル横リダツタラウカ、喜ビ勇ンデ内地ヘ向ツタ。トコロガ宇品へ着クヤ否ヤ皆縛ラレテ牢ニ入レラレ、廣島地方裁判所デ被判ヲ受ケルコトニナツタ。

廣島デ王妃殺害事件ノ公判ガ進行シテ居ル間ニ、朝鮮國王ハ王宮ヲ脱出シテ露國公使館ニ逃げ込ンタ。ソレハ露國公使館員ガ朝鮮宮内官ト通謀シテヤツタ仕事デアツタ。ソレカラ又「アメリカ」ノ宣教師ト朝鮮人ガ一組ニナツテ日本黨ノ人々ヲ暗殺スル陰謀ヲ企テタガ。ソレハ朝鮮政府ノ當局デ皆犯人ヲ逮捕シ處分シテシマツタ。

6.12.21.0-I

ガソシナ陰謀ヲ企テル空氣中ニ於テハ日本人ノ犯罪ニ限り嚴重ニ檢舉スル政策ヲ執ル必要ハナイト云フヤウナ議論ガ起ツテ來タ。ソレニ又一方朝鮮當局ノ方デモ王妃殺害事件ノ審理ヲ遂ゲタル處王妃殺害者ハ朝鮮人ノ何某ト決定シ既ニ死刑ニ處セラレタカラ、日本ノ裁判所ガ本件ヲ審理スル必要ハナイト云フ理由テ被告人ハ一同無罪放免ニ決定シタ。

S 12.2.1.0.1

156

併シ當時私ハ非常ニ苦シイ立場ニ在ツタ。ソレト云フノハ領事タル私ハ廣島地方裁判所ノ嘱託ニヨリ豫審判事ノ職ヲ勤メナケレバナラナカツタ。本件ノ關係人ハ公使館員始メ壯士ノ連中モ皆平素私ノ知ツテ居ル人々テ、ソレ等ノ人々ノ犯行ヲ一々調査シナケレバナラヌノニハ私モ大變困ツタ。併シ領事館巡查ノ中一番朝鮮語ガ上手デ最初カラ事件ニ關係シテ居ツタ度邊鷹次郎巡查ダケハ内地へ歸サナカツタノテ、廣島裁判所ノ依頼ニ依ツテ取調ヲスル時ニハ、其ノ巡查ニ命シ王城内ノ質地ヲ調べサセテ報告シタコトモアル。

0145

要スルニ、表面ハ朝鮮人ガ王妃ヲ殺シタコトニナツテ居ルケレド
モ、實際ハ右ニ述べタヤウナ次第アツタ。

二、紐育在勤當時

米國人ノ對日態度

明治二十九年私ハ紐育ヘ轉勤ヲ命ぜラレ着任後間モナク米西戰爭
ガ起リ其結果米國ガ「フイリツビン」ヲ領有スルコトニナツタ。當時
米國人ハ一般ニ我國ニ對シ好意ヲ持チ、「フイリツビン」ハ將來日本ニ
遺ルノダト戲レヲ言フ者サヘアツタ。米西戰爭後間モナク日露
戰爭ガ始マツタ。其ノ時ニハ米國人ガ學國一斉シテ日本ニ同情ヲ寄
セテ吳レ、日本軍ガ勝ツト自國ノ軍隊ガ勝ツタヤウニ喜ビ、我々日
本人ガ街ヲ歩イテ居ルト見ズ知ラズノ人々ガ握手ヲ求メテ祝ヒノ挨
拶ヲ述べ、新聞雜誌ハ筆ヲ揃ヘテ親日的態度ヲ示シ、中ニハ事實ヲ
捏造シテ迄日本ヲ支持シテ吳レタ向キモアツタ。

ケレドモ當時米國ノ諸新聞中「ニューヨーク・ハーレード」ダケハ

S 12.2.1.0.1

157

0146

N-0049

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

日本ニ貢負シテ吳レ大カツタ。同新聞ハ米西戦争中自國ノ政策ニ反對スル唯一ノ新聞デアツタガ日露戦争中ハ其社説ニ於テ反日態度ヲ採ツタ唯一ノ新聞紙デアツタ。段々調べテ見ルト、其ノ社主ハ米國人デアルケレドモ平素巴里ニ居住スル獨身者デ米西戦争ノ時ニハ西班牙ノ妻ヲ抱ヘ日露戦争中ハ露國人ノ妻ト同梗シテ居タガ「ヘラルド」紙ノ社説ハ毎日社主カラ本社ヘ向ツテ電送シテ居タトノコトデアル。

ソレカラ又「アメリカ」人ハ前述ノ通り一般ニ日本側ニ同情シテ居タケレドモ、獨リ日本反対ノ態度ヲ採ツタ者ハ「アンドリュー・カーネギー」ト云フ有名ナ金持ダツタ。當時紐育社交界ニ於テ知名ノ米國婦人連中ガ在留日本婦人ト共同シテ日本ノ戰死者遺族救助ノ寄附金ヲ募ツタ折リニ私ノ妻ガ「カーネギー」ノ夫人ニモ寄附ヲ依頼シタ所ガ、自分ノ夫ハ此ノ戰争ニ就テハ日本ニ反対ダカラ寄附金ハ出セナイト云ウテ拒絕サレタ。「カーネギー」ガドウ云フ譯テ反

6 12.2.1.0.1

158

N-0049

0149

對シタカト聞イテ見レバ彼ハ幼少ノ時「スミソニド」カラ米國ニ渡リ一生ノ間ニ何億弗ト云フ財産ヲ作り、ソレヲ社會ノ爲メ人類ノ爲メニ最モ有益ニ使ハウト云フ考ヘカラ色々ナコトヲヤツタガ。其ノ中ノ一つハ・國際間ノ紛争ヲ戰争デ解決スル代リニ仲致々判ニ依ラシムルタメ「ヘーネ」ニ平和殿ヲ建設シタ。日露間ノ紛争モ此ノ平和殿ニ持込ミサヘスレバ戰争ヲセズニ解決シ侍ルノニ。日本ガ突然旅順ヲ攻撃シ撃戦ノ結果斯ウ云フ風ニナツタノデ。是ハ日本ガ惡イノダ。其ノ惡イコトヲシテ居ル日本兵が戰死シテ遺族ガ困ルノハ自業自得ダト云フノニアツタ。併シ日本ニ對シ好意ヲ持ツ一般米國人ハ前記ノ通り日本ノ勝報アル毎ニ大イニ喜ビ、殊ニ鶴祿江ニアレ陸軍ガ始メテ大勝利ヲ獲タ時ニハ、米國知名ノ人々カラ黒木將軍宛ニ祝電ヲ送ツタ。トコロガ「カーネギー」モ同將軍へ電報ヲ發シタケレドモソレハ祝電デハナク日本軍ハドウシテソンナニ勝ツノカト云フ質問ニアツタ。陛下ノ御稜威ニ依ツテ勝ツノダト云フヤウニ

ハ相手ナリ。僕やア唐體字の爲めか、書類の年月日を讀むのが難しく、常に翻訳が必要である。次に翻訳する箇所を読み、その意味を理解する。本稿は日本語で書かれたもので、翻訳する際には、日本語の文脈を考慮して翻訳する。また、日本語の文章構造や表現を理解するため、文法や語彙を学ぶ。翻訳した内容を確認し、誤りがないことを確認する。最後に、翻訳された文章を日本語の文脈で理解するため、日本語の文章構造や表現を理解する。また、日本語の文章構造や表現を理解するため、文法や語彙を学ぶ。翻訳した内容を確認し、誤りがないことを確認する。

6 12.2.1.0.1

159

返事ヲシタガ。ソレハ米國人タル彼ニハ通ジナカツタラシイ。ソ
ドモ陸戦ニナツタラ必ズ日本ハ負ケルダラウト自分ハ忠ツタガ日本
ハ陸戦モ矢張リ勝ツタ。是ハ日本ハ貧乏ダカラ勝ツノダ。「ロシ
ヤ」人ハ金ガアルカラ平素資澤ラシテ居ルノデ戦争ニナツテモ矢張
リ資澤シナケレバ承知シナイガ、日本人ハ不味イ物ヲ常ニ喰ツテ居
ルノデ戰争ニナツテモ我慢ガ強イ。日本ハ何時迄も貧乏ダカラ何時
迄モ強イノダト云フヤウニ皮肉ヲ言ツタコトガアル。

何故ニ米國人ガソシナニ日本ニ好意ヲ寄セタカト云フト、一體日本
ハ米國ガ世話ヲシ引立テ、ヤツタ國デ、ソレヲ「ロシヤ」ノヤウ
ナ大國ニイチメテレルノハ氣ノ毒ダカラ助ケテヤレト云フヤウナ考
ヘノ者ガ多數アツタノダ。ソレト又私が紐育在勤時代カラ米國ノ南部
部地方ニ於ケル紡績事業ガ盛シニ發展シテ來タ。元來紡績事業ハ北
部ノ「ニューヨーク・イングランド」地方デハ早クカラ起サレテ店ツタノ

S 12.2.1.0.1

速く現出せざる事。然等ハ職務遂ニ達成せ難く、或は仕事中や仕事
中止後等で、之へ連鎖せハセキ日本事ハ生じ得て又ハ、其處等に於く
事務室や倉庫等大體皆々運営相手ハ、茶酒屋等ハ勿論、本邦の
個人へ贈送へ難り日本へ贈送へ難か候事也。本邦の機心者達は勿論
本邦内に之真へ贈奉に不至る者種々日本長崎卸賣之者等甚多く御
外洋巡遊を既畢せ而猶未へ歸還へ結果總や度々風土大変にて、即ち
ハ勞碌、甚ニ艱辛多き事に罹り、日本長崎卸賣之者等甚多く御
御そぞみが爲ス。一例ハ、平時無事無難に及ぶ事無く、即ち、船
裏ハ中へ一泊ベ、船頭即ハ船主は甚く懼意を餘リ、又は船頭等は總と爲
ハ難事、一泊ハ即ニ掛漁業者五人程にて泊リ、又は船頭等は總と爲
費之事成を關トモ解釈ハ難く、總へ既受之難事にて、即ち、船頭等は總

ダガ、同地方テハ棉ヲ產出セズ、又職工ノ同盟運動等ガアツテ勞働
紛議方絶エナイノデ其經營者ハ棉化ヲ產出スル南部地方ニ工場ヲ移
スモノガ多クナツタ。併シ南部地方デハ職工ガ償レナイノテ太糸ノ
織物シカ出來ズ、其製品ハ内地市場ニ適シナイノデ滿洲ニ輸出シテ
居ツタ。トコロガ滿洲ヘハ「ロシャ」ノ綿製品ガ發展シテ來テ、折角
シテ「ロシャ」人ヲ滿洲カラ驅逐シテシマヘバ自國ノ綿製品ガ賣
レルダラウト云フヤウナ考ヘカラ日本ニ好意的態度ヲ執ツタ者モ柏
當ニアツタ。

ソレカラ又「ロシャ」デハ非常ニ「ユダヤ」人ヲ虐待シテ居ツタ
ノデ、其ノ復讐ラスル爲ニ米國ニ住ム「ユダヤ」人ガ結合シテ日本
ニ顙負ラシテ吳レタ點モアル。米國ノ新聞事業界デモ金融事業界デ
モ主ナルモノハ大抵「ユダヤ」人ノ經營ニ屬シテ居ル。日露戰爭當時普通ノ手段デ日本ガ米國デ公債ヲ募集スルコトハ不可能ノ情勢デ

思ツテ「テキサス」「ルイジアナ」地方へ旅行シタコトガアル。同
地方ニ行ツテ見ルト、日本ノ米ヲ試作シテ成功シテ居ル者ガアツタ。
其狀況ヲ調査スルト大分儲カルラシイ。土地モ廣クアリ、何處ニ井
戸ヲ掘ツテモ水ガ出ルノデ、ソレヲ汲ンテ灌漑出來ル。是ハ「ルイ
ジアナ」ノ「ドクター・ナップ」ガ日本へ來テ米作ヲ研究シテ歸ツ
テ「ルイジアナ」ト「テキサス」ノ兩州ヲ始メタモノダガ、ソレヲ
見タノデ私ハ米作ノ爲メ日本人ヲ入レテ見ヨウト企テタ。當時其事
ガ日本ノ新聞ニ出タノテ一番最初ニ大西理平ト云フ時事新報ノ記者
ヤ西原清東（元京都同志社々長）ト云フ人達ガヤツテ來タカラ、私
モソレ等ノ人々ト共ニ現地ヘ行ツテ土地ヲ買フ世話ヲシテヤツタ。

其後他ノ連中モ後カラ續々米作ノ爲メ渡來シタ。此等ノ人々ハ最初
二三年間ハ土地ノ買入又ハ借入レ等自由ニ許サレ日本内地ノ米作ニ
比シ數倍ノ利益ヲ得タ者モアツタガ、其ノ後矢張リ南部地方ニモ日
本人排斥ノ氣運ガ及ンデ來テ、日本カラ労働者ヲ呼ンデ劔カセルコ

S 12.2.1.0.1

163

0153

トガ出來ナクナツタノミナラズ土地ノ所有權モ許サレヌ様ニナツタ
 カラ折角着手シタ事業ヲ止メナケレバナラナクナツタ。左様ノ次第
 デ「テキサヌ」、「ルイジヤナ」州ニ於ケル我米作移民ハ全ク絶望
 トナツタカラ私ハ將來我日本民族ノ發展ヲ計ルニハ米國以外ニ日本
 人ヲ移植スル新天地ヲ求メナケレバナラヌト考ヘタケレドモ・日本
 人ガ從來ノヤウニ獨身デ外國ニ出掛ケ其行先デ成功スルコトハ甚ダ
 難カシイ。日本人ガ海外デ成功ヲ期スルニハ其ノ行先地ニ永住シテ
 其ノ土地ノ人トナツテ市民權ヲ得ナケレバナラヌ。サウデナイト例
 時迄經ツテモ外國人收拔ヲ受ケテ、其ノ土地デ發展出來ナイ。ダカ
 ラ將來日本人ハ歸化ノ出來ル國へ行ツテソコノ市民トナルコトガ必
 要デアル。市民トナツテ居レバ排斥ヲ受ケルヤウナ事態ガ起ツテモ
 我領事ヤ外交官ニ賴ラナイデ自ラ自分ノ權利々益ヲ擁護スルコトガ
 出來ル。併シソレハ國ニ依ツテ事情ガ異リ、サウ云フコトノ出來ナ
 イ國モアルカラ、ソレノ出來ル國ニ我移民ヲ送ラナケレバナラヌト

S 12.2.1.0-1

164

添ハ種々ハ渠接實力者也。且添本モ營繕官ト謂之、鄉村中士官也。
 出本處者ハ將軍也。若其者又内閣也。渠接實力者也。渠接實力者也。
 三井洋商ハ主導ハ實力又ハ開港入港等處出ニ有也。若本內閣ハ渠接
 実力者也。渠接實力者也。渠接實力者也。渠接實力者也。渠接實力者也。
 渠接實力者也。渠接實力者也。渠接實力者也。渠接實力者也。渠接實力者也。
 渠接實力者也。渠接實力者也。渠接實力者也。渠接實力者也。渠接實力者也。

云フヤウナコトヲ書イタ意見書ヲ外務省ニ提出シタコトガアル。ソレガ採用サレタノカドウカハ知ラヌガ、其ノ翌年移民調査賃ト云フモノガ成立シタ。サウシテ北米、南米、其他南洋等到ル所ニ人ヲ派シ、或ハ其ノ地方ニ在勤シテ居ル領事官、外交官ニ調査サセ、方々カラ報告書ガ本省ニ集ツタガ、其ノ中最モ有望ト認メラレタノガ「ブラジル」デ、當時ノ通商局長杉村氏モ頻リニ「ブラジル」ガ宜シカラウト主張シテ居ツタ。

日伯間ノ條約ハ大隈外務大臣ノ時ニ始メテ結バレタモノデ、ソレハ移民ヲ目的ニシテ作ラレタモノダツタ。初代ノ公使ハ塚田氏、次ニ大越氏ガ行ツタガ格別ノコトモナク、杉村氏ガ行ツテ大イニヤル横リデアツタ所、不幸病ヲ侍テ任地デ倒レテシマツタ。ソコヘ私方紐育カラ歸朝シタ所ガ、杉村氏ノ代リニ「ブラジル」ヘ行ケト言ハレタ。ソレデ私ハ、行クニハ行クガ、併シソレニハ自分ノ案ヲ通スヤウニシテ貢ヒタ伊、即チ家族移民ヲ送ツテ向フニ水住サセテ市民

ト開キテハシム。又ハ出港ハ船を難遇セシムモナシ。又ハ土出來シロ物ヤソハ船ニ升ヒテ船頭交換ミ、セキモ無ニシテ船頭モ船員モハニシテ、
船員暮テ機警自ニ警セテ不吉日食ハ船頭モ益モ船頭モハニシテ、
獎モテヨリ車輿ナセシヤ源ニハ耕氣セ愛モ申子セシモ船頭モ船員モハニシテ、
又報來日本人ハ輸出ハ國庫ハ國ヘ音セテ又セビ申氣ナセシモハニシテ、
御感應スギテ御教諭入罪始ミ愛セテ、其入士獻モ鑑鏡出海セシモハニシテ、
其入土獻ハ人ナセビセ事以爾而積セキヨハセモ申セラセシモハニシテ、
雖セビトヨリ日本入セ船投セ運載モ船大ナルハ眞ハ昌宗御事は余謂セテ
人貨卸來ハセキモ御裝モ機関モ出船モ其音欲モ御要モ本日御
ヤ一モ半セスル。一小少セモ一少一少ニ體セ小販者着暴風ハ金又難體
度モ甚且甚ハ運輸業者モ運輸業者モ出船セモ以久以來モセモセモセモセモ
ト御出来セモセモセモセモセモセモセモセモセモセモセモセモセモセモセモ

權ヲ得ルヤウニスルナラバ日本人ノ「ブラジル」人、「ブラジル」人ノ日本人ガ出来ルコトニナル。サウ云フ趣旨テ家族移民ヲ送リタ
イト忠フガ、此理想ガ果シテ實現出來ルカドウカ向フヘ行ツテ調べ
テ見ナケレバナラヌガ、若シソレガ可能ダト云フコトニナレバ大イ
ニ力ヲ入レテ貰ヒタイト希望ヲ申述べテ赴任シタ。ソレハ明治三十
九年ノコトダツタ。

着任後段々調べテ兄ルト、其風土氣候ガ日本人ノ移住ニ適スルノ
ミナラズ「ブラジル」ノ政府モ人民モ皆日本ノ獨身移民ヨリハ家庭
移民ヲ希望シテ居リ、若シ家庭移民ヲ寄越スナラバ渡航費モ補助シ
歸化モ容易ニサセヨウシ、又特ニ日本人ノ爲メニ領民地ヲ作ツテヤ
ラウト云フヤウナコト迄言ツテ非第ニ其渡來ヲ希望シテ居ル情況ヲ
見テ其詳細ヲ本省ヘ報告シタ。本省デモ亦「ブラジル」ニハ家庭
移民ニ限り渡航サセル方針ヲ採ルコトニ決定シタ。トコロガ從來海
外へ出稼スル者ハ皆才獨身者バカリダツタノデ今度家庭移民ヲ送ル

事事ヨリアリテ始へ、皆モハ皆音モ共、猶々伊はハ「田舎ハア、那ム
難れ度キ滿喫モアルゾ」。眞怪也。但其トニハハリテ「管子」有曰
ク「智士不惡處」。余等所ぞ由々暇を以て暇を貰はざつては、前山
ハ勿論以背骨を無駄費入不才者也。雖然ハ實情ヤマハリ。且
日南國ノ域界ハ大糸我悉大通ハ御山田之部矣。吾君ニテ
セ、成モカホ。近畿之受命又大。

一文不給本邦に、當初ハ無縫縫縫縫縫縫縫縫縫縫縫縫縫縫
之故、馬鹿舊習底以來海に謀定セキ。既ノ甲子年月日於此之類
既而、御ハ集ハ學校ニ並種セキ御教訓也。義學ノ御教訓也。其
事人亦頗立ニ參り其やく受講奉、出米、其ノ諸相籍學數も少ヒ人等
四名署掛セサセシム。既往セキハ誠文及家、其ノ懸想御道關置也。汝等
女事多々ナシモ誓下莫急早遣交換也。後發置ニ靈鷲也。其ノ事也。大

S 12.2.1.0-1

166

0156

其ノ後伯國政府ノ財政上ノ都合テ渡航費ノ補助が出來ナクナツタノ
テ、ソレ以後ハ日本側テ補助シテヤルコトニナツテ今日ニ至ツテ居
ル。

サウ云フ譯テ「ブラジル」ノ家族移民ハ私ノ時代ニ始メタモノダ
ガ、現在テハ其人數ガ約二十萬人ニ達シ彼ノ地テ生レタ者モ大分ア
リ、其中ニハ伯國ノ大學ヲ卒業シテ相當ノ位置ヲ得タ者モアル。今
後南米北支那方面ニ日本人ガ進出スルコトニナレバ「ブラジル」
ノヤウナ遠方ニ移民ヲ送ル必要ハナイカモ知レヌガ、是迄既ニ多數
ノ我民族ガ繁殖シテ居ル地方ダカラ今後モ引續キ之ヲ繼續シテヤツ
タ方ガ専策ト思ハレル。

四、瑞典國在勤當時

獨逸公使ノ接近

次ノ狂地ハ瑞典ダツタガ、同國ニハ明治四十五年カラ世界大戰ノ
終リニ近イ頃迄在勤シタ。

S 12.2.1.0.1

大正三年歐洲大戰勃發後間モナク我國ハ日英同盟條約ニヨリ英國側ニ加ハリ參戰スルコトニ決定シ獨逸ニ對シ最後通牒ヲ發シタ後ハ我國ト獨逸國間ノ通信ハ郵便モ電信モ全ク杜絕スルト同時ニ我在外公館及日本人ト在獨日本公館及日本人相互間ノ通信モ亦全ク杜絕サレ私ガ本省ノ電訓ニヨリ我政府ガ對獨最後通牒ヲ發シタ趣ヲ在獨大使館ニ轉電シテモ一向ニ到着ノ僕様ガナイ。ヨツテ私ハ一策ヲ案ジ平素懇意ニシテ居タ瑞典駐劄米國代理公使ニ對シ其内容ヲ告ゲズ增ヌルコトガ出來又ト言フテ來タ。ソコデ私ハ伯爵西爾在勤中カラ懇意ノ間柄デアツタ當時ノ瑞典駐劄同國公使ニ對シ石電信ノ取次方ヲ依頼シタ處同公使ハ直チニ之ヲ快諾シ同公使館ノ電信トシテ伯林ノ同國大使館ニ電報シ、同大使館カラ乙ヲ我船越代理大使ニ轉交シ遂

S 12.2.1.0-1

169

0159

N-0049

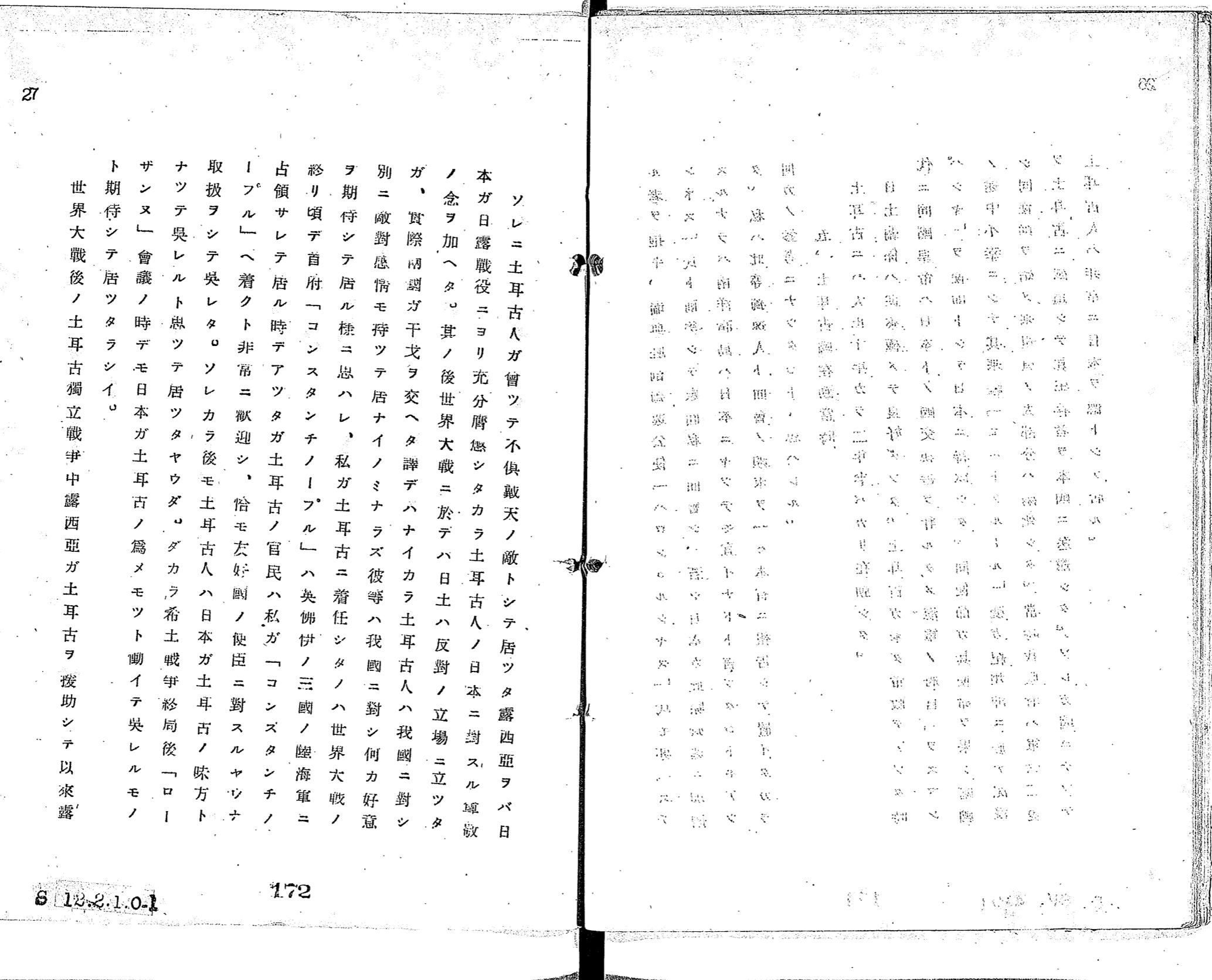
ニ其目的ヲ達スルコトガ出來タ。

世界大戦中瑞典ハ終始獨逸ニ同情シ、恰モ日露戰爭中米國人ガ日本ニ同情シタゾト同ジヤウニ瑞典人ハ獨逸ニ好意ヲ寄セテ居ツタ。ケレドモ日本ニ對スル反感ハ少シモナカツタ。當時瑞典ニハ多數ノ獨逸人方入り込ンデ居ツタガ、彼等ハ俗別ニ日本ヲ敵視スル模様ハナカツタ。ノミナラズ當時獨逸ノ實業界ニ有名ナ「ヒュー・ゴー・・スチンネス」氏ノ如キハ「ストツクホルム」在ハ獨逸當局ノ意ヲ坐ケタルモノト思ハレタ、獨逸側ニ対返リヲ勸告シタコトガアツタ。ケレドモ私ハ之ニ對シ、將來世界ノ情勢が變化スレバ日本ガ獨逸ト手ヲ握ル時ガ來ルカモ知レナイガ、此ノ戰爭日テハ防共協定ガ出來テ日獨關係ハ極メテ緊密ナモノトナツテ居ルガ、獨逸人ハ世界大戦當時カラドウニカシテ日本ヲ獨逸側ニ引入レ

S 12.2.1.0.1

170

N-0049



土關係ハ昔日ト異リ俄カニ好轉シタケレドモ、土耳古人ハ心カラ露西亞人ガ好キナムデハナイシ、露西亞人モ亦土耳古人ガ好キナ、譯デハナク唯一時的ナ接近デアルカラ其親善關係ハ何時變化スルカモ知レナイ有據デアル。然ルニ露西亞ヲ將來ノ假想敵國トスル我國ニ於テハ黒海通航ノ要路タル「ボスホラス」及「ダーダネルス」両海峡ノ鎖鑰ヲ握ル土耳其ノ親善關係ヲ維持増進スルコトハ我國策上頗ル肝要ト思ハレル。

S 12.2.1.0.1